

充実の奨学生制度・奨励制度・留学制度…

学生生活の可能性が広がる

専修大学には「社会知性の開発」を実践的にサポートするシステムがそろっている。さまざまな支援、機会を活用して自分の可能性を広げよう



▲左から田中さん、秋谷さん、阿藤学生部長、陸野さん、秋谷梓帆さん、田中久姫さん(共に人間科学) 11月、2月7、14日、タイでのボランティア活動と異文化体験 長橋未麻さん(人間科学) 11月、12月、1月31日

学生部「後期」海外研修・国際交流奨励生決まる

学生部の2011年度交流などを目的に渡航する「後期」海外研修・国際交流奨励生(個人・団体)に奨励金が贈られる。氏名が決まった。調査、ポラと渡航先、期間・渡航目的は次の通り。

学生部長賞に3団体

学生部長賞に3団体



▲3団体が表彰された

顕著な活動を行ったサークルを表彰する、学生部の2011年度学生部長賞に吹奏楽研究会、スリングジャズ研究会、学部教授から賞状と賞金(各1万円)が贈られた。表彰内容は以下の通り。

吹奏楽研究会(震災で楽器が破損したりする中、東京都大学コンクール6位入賞、15年ぶりに都大会に出場したほか、慰問演奏会など数々の演奏活動を行った) スウィングジャズ研究会(震災復興支援ライブや東日本チャリティイベントに出演したほか、義援金の一部を石巻専修大学、楽器を失った子どもたちに寄付した) 硬式庭球愛好会セブテナー(創部40周年を迎え、活発な活動を続けるとともに、秋の「専大テニスクラブ・オープンーナメント」で男女とも2連覇を達成した)

2月8日、イギリスのフアンタジー文学の関係者との交流。3月3日、日本企業の東南アジア進出のメリット

懸賞論文・文芸作品コンクール



学生部主催の2011年度「懸賞論文・文芸作品コンクール」の入賞者が決まり、12月14日、生田キャンパスで表彰式が行われた。文芸部門は建部華子さん(文3)が「極彩色の内臓」が鳳賞を受賞。賞状と賞金20万円が贈られた(懸賞論文は鳳賞の該当者なし)。

小林恭二ゼミで小説づくりを学び、初の長編で初受賞となった建部さん。「極彩色の内臓」では不登校の女子大生に起こった事件と、その内面の葛藤を描いた。「主人公の感情の変化により、社会が変化するようないくつかの品づくりのきっかけ。鳳賞は今年度の応募件数は懸賞論文が13作品。文芸作品が20作品だった。



文芸・鳳賞に建部さん(文3)

- #### ◆懸賞論文
- 【優秀賞】賞金5万円 ションツール(林朋実(文3))「メイクが人々を『生き長ぐ』する」
 - 【佳作】賞金2万円 田中久美子(商4)「億を『生き長ぐ』する」
 - 【文芸賞】賞金20万円 株バフフォーモンス(資) 産評価モデルによる実証分析(寺牛陽菜(文3))「結婚難時代」
 - 【鳳賞】賞金20万円 建部華子(文3)「極彩色の内臓」
 - 【優秀賞】賞金5万円 岡田大樹(文3)「六原反田達文の葬送」
 - 【佳作】賞金2万円 Hand in hand(文2)川股彩(文4)「みつめる」
 - 【佳作】賞金2万円 小泉拓麻(経済2)「餅とすっぽん」
 - 【佳作】賞金2万円 多賀谷俊規(商4)「董色の煙」
 - 【佳作】賞金2万円 浅輪貴弘(文2)「俺を結ぶ縁」
 - 【佳作】賞金2万円 前田貴俊(文4)「路地裏スペシャリスト」
 - 【佳作】賞金2万円 佐藤美香(二部)「ひがんの恋人」

人文ジャーナリズム学科の9人 被災地で「ふれあい」ボランティア



▲集まったおばあちゃんたちと机を囲んで(12月26日、石巻市の開成仮設住宅団地北集会所で)

文学部人文ジャーナリズム学科の有志9人が東日本大震災で津波の被害を受けた人々を励まそうと、昨年12月26日から28日まで、石巻市の仮設住宅で「ふれあい」ボランティア活動を行った。子どもたちと遊び、お年寄りから被災時の話を聞き交流、心を通わせた。この活動の発端は、同学科の藤森教授が同市のボランティア「開成11団地」の集会所に訪ねたことだ。

石巻市の仮設住宅を訪ね おばあちゃんたちと交流

「ふれあい」ボランティア活動は、子どもからお年寄りまで、一日約10人が集まった。学生たちは3日間の活動を終え、手紙や写真を交換、津波で家を流され、肉親を失った86歳の女性と親しく話した。藤森教授は「被災地では心のケアが重要になってきていると実感します。学生たちは学ぶことが多かったのでは」と話している。この活動は、2月10、12日と、3月26、28日にも同会場で行われる。



▲学生に三角巾による応急手当を実演する高橋さん(右)と植木さん(左)＝神田キャンパス



▲石巻で汗を流す＝2011年8月

学生有志団体「SKV」

「防災は生きていく上を目標としている。メンバー全員が専修大の『学生有志団体SKV(専修大学神田ボランティア)』(高橋弥弥代)を受講。災害救援ボランティア推進委員会から「表・法2、会員27人」は2010年暮れに発足、東日本大震災を機に活動が活発化した。その柱は「防災」と「地域貢献」。防災技術の向上と一般学生間の防災意識を高めること」

「防災活動の体験 伝え続けたい」

リーダー認定証、東京消防庁から上級救命技能認定証を取得している。活動は災害対策のほか、神田キャンパス周辺の清掃や、リサイクルとワケチマップづくりなど実践的に行っている。学生部が主催した被災地・石巻市での2回のボランティア活動(11年4月と8月)には、ほぼ全員が参加した。高橋さん(右)は「被災地の近しい宮城県原市出身の高橋代表は「石巻の体験は衝撃的だった。被災者と触れ合う中で、助かるはずだった命がたくさんあることを知り、防災は継続しなければならぬ」という。副代表の植木貴文さん(法2)も「石巻での活動では、わずかでも被災者の役に立てるのだと実感しました。しかし、そこにずっと留まることはできない。その思いを東京に持ち帰り、いつ起こるか分からない震災に向けて一人ひとりの防災意識を高めることが私たちの役目と思うようになりました」。